

一般社団法人日本鉱物科学会平成29年度第1回定例理事会議事録

- 【1】 招集通知年月日：平成29年(2017年)8月29日
- 【2】 開催年月日及び時刻：平成29年(2018年)9月12日（火）17時00分～18時00分
- 【3】 開催場所：愛媛大学城北キャンパス理学部講義棟 S21室
- 【4】 理事総数および定数：総数 32名，定足数 17名
- 【5】 出席理事数：26名（*印の1名はWEB会議参加）
土山 明，榎並正樹，大藤弘明，佐藤 努，永瀧真理子，濱本拓志，平島崇男，
宮島 宏，井上 徹，黒澤正紀，小暮敏博*，下林典正，高澤栄一，土谷信高，
長瀬敏郎，中村美千彦，安東淳一，大和田正明，河上哲生，川本竜彦，鈴木正哉，
永井隆哉，伴 雅雄，三河内岳，宮脇律郎，吉朝 朗
- 【6】 欠席理事数：6名
阿部なつ江，上原誠一郎，鍵 裕之，貴治康夫，角替敏昭，森下知晃
- 【7】 出席監事：小山内康人
- 【8】 オブザーバー：(幹事，各委員長，報告者)
出席：栗林貴弘会計幹事，片山郁夫Elements幹事，大谷栄治JpGU連絡担当委員，
奥山康子教育普及委員会委員長，坂野靖行博物館委員会委員長，
齊藤 哲JpGU2018年度学会選出プログラム正委員・門馬綱一同副委員，
土屋範芳研究部会「岩石－水相互作用」代表者
- 【9】 議長概要
定足数17名を超える26名の理事が出席（1名はWEB会議出席）し，定款30条により
理事会が成立したことを確認したのち，土山明会長が議長となり平成29年度第1回
定例理事会を開始した。
会議に先立ち会長より河上哲生理事が書記として選出された。

I. 報告事項 平成29年8月12日以降の業務報告)

会長・副会長の職務執行報告(土山会長・榎並副会長)

各業務は各担当者に一任していることから，会長，副会長から個別の報告は特にないの
で，以下の順に沿って，各担当者に報告いただいた。

1. 第1回理事会開催直前の委員会報告：

(1) 英文誌編集委員会報告（平島英文誌編集委員長・理事）

平成29年9月12日(火)12:10~13:00に愛媛大学城北キャンパス理学部講義棟S21において開催されたJMPS編集委員会の内容について報告があった。

1) JMPS状況報告

(i)投稿数状況：2017年は1月4件，2月0件，3月7件，4月12件，5月3件，6月5件，7月9件，8月3件で，8月までの合計は43件。2017JpGU大会講演Letter募集結果は申込10件中，投稿が6件あった。年間投稿集が50編以下になると投稿システム利用が難しくなる。(ii) 編集状況：査読中9編，返却中12編,受理・英文校閲中3編，印刷準備中1編である。(iii) 発行状況：JMPS112巻4号(8月号)5編42頁電子ジャーナル8月10日公開，冊子発行は9月末。今後の発行予定: 112巻5号(10月号特集号)(早期公開3編，初校中1編,印刷待1編,準備2編), 112巻6号(12月号)印刷準備中2編。(iv) 2016年のJMPSのImpact Factorは0.409（一昨年2014年0.656，昨年2015年0.589）であった。

2) 2017年年会講演を対象にLetterを募集中である。スケジュールは，投稿申込締切日が2017年10月10日(火) 締切日厳守，原稿提出締切日が2017年11月14日(火) 締切日厳守。Letter企画の対応再確認があった。時宜にかなった話題の迅速な掲載や，興味深いデータをコンパクトに提供するという，Lettersの目的にそった原稿の投稿を募集。Letters原稿の長さは，原則刷り4頁以内，最大6頁以内，極力WEBサイトへのdepositは避けること。depositが多い場合はOriginal Articleへ変更する場合もある。

3) 編集委員の交代について。以下の3名が新たに編集委員会で承認された。今期の任期は残り1年で，その後再任する。

永井隆哉会員（北大），栗林貴弘会員（東北大），門馬綱一会員（科博）

4) 冊子体はモノクロで電子ジャーナルをカラーにする件：検討する場合は，会計上の影響を少なくして，またGKK編集委員会と同じ条件で検討する。

(2) 将来企画委員会報告（榎並将来企画委員会委員長・理事）

平成29年9月12日(火)12:10~13:00に，愛媛大学城北キャンパス理学部講義棟S21で開催された将来企画委員会の内容について報告があった。

1) 外部団体からの受賞候補者推薦依頼への対応について，候補者選考対象として日本鉱物科学会の各賞受賞者を候補者の選考対象とするほか，会員への候補者の推薦依頼を行うこととした。推薦された候補者もしくは候補者リストからの選考については，委嘱された日本鉱物科学会各賞の選考委員会が分担して選考をおこなうこととする。具体的には，IMA Awardおよび日本学術振興会賞については学会賞選考委員会，文部科学大臣表彰若手科学賞は奨励賞選考委員会，文部科学大臣表彰科学技術賞は応用鉱物学賞選考委員会がそれぞれ選考する。日本学術振興会育志賞については継続審議。基本的に，委嘱された各選考委員会の推薦候補者を最終決定とし，理事会へは報告事項とする。

2) IMAの国内委員会活動の活性化について議論され，拠出金5万円の負担，いかにして小委員会へ貢献するか，メンバーの選出にどれくらい関与するかについて議論された。

(3) IMA分科会（国内委員会）報告報告（大谷委員）

平成29年9月11日(月)16:00~17:00に愛媛大学城北キャンパス理学部講義棟S21にてIMA国内委員会として開催され、その内容の報告があった。(1) IMA の各コミッションの活動報告と活動内容の検討、2018年IMAメルボルン大会の活性化、特にセッション提案等について話し合われた。(2) IMA国内委員会の活性化の方法について、学術会議24期(10月から)会員、連携会員の推薦や第24期の対応(地球惑星科学委員会、企画分科会の方針)を中心に話し合われた。(3) 大型研究計画マスタープランの動向について報告があった。(4) 日本の基礎科学の現状(学術海外報告)と対応について、特に鉱物科学における人材育成に関する諸問題について、および国際発信力の強化方策について話し合われた。(5) IMA国内委員の辞退・若返りについて、村上委員、赤井委員が辞退希望されている旨報告があった。(6) 日本地球惑星科学連合の動向についての報告があった。2018年JPGU:セッション提案受付中、代議員選挙は立候補・推薦締め切りが9月11日。国際活動:今年はAGUとのジョイント会合、来年以降AGU, EGU, AOGSとジョイントセッションを計画、2020年の大会をAGUとの第二回ジョイントを検討している、との報告があった。

2. その他委員会, 幹事報告

(1) 会員報告(佐藤会員幹事, 理事・吉朝会員増対策特務幹事, 理事)

退会会員2名。継続2年未納者資格停止者はシニア会員5名、一般会員11名がおり、関係理事により連絡すること次回理事会まで保留することとした。会員数の変遷について報告があり、全体として会員減少が続いており、会員減対策を立案中との報告があった。

(2) 広報報告(伴広報幹事・理事)

学会事務連絡、公募案内、関連学会案内など会員へのML送信や学会ホームページの更新を実施した。また、社団法人化の記念事業の一環として鉱物岩石試料の寄贈事業を行った。

(3) 和文誌編集委員会報告(長瀬和文誌編集委員長・理事)

平成29年9月13日(水)12:15~12:45に愛媛大学城北キャンパス理学部講義棟S21室で行う予定の岩石鉱物科学編集委員会議題についてあらかじめ報告があった。

- 1) 編集状況報告:印刷状況は46巻3号を9月末発行予定。その他の記事として日本鉱物科学会の国石選定事業と国石「ひすい」を8月10日に早期公開した。受理論文1編初校中。現在査読中論文は4編(依頼原稿1編含む)で受理論文は無し。
- 2) 編集委員の交代について:
定年による委員の退任(総会終了までで退任)木村 眞。
後任の新委員 宮原正明(広島大学)
- 3) 冊子体はモノクロで電子ジャーナルをカラーにする件:検討する場合は、会計上の影響を少なくして、またJMPS編集委員会と同じ条件で検討する。

(4) 庶務報告(中村庶務幹事・理事)

各委員会選出選挙(会長・副会長推薦委員会含む)を10月以降に実施するとの報告があり、交代委員名などの確認があった。

- 1) 日本鉱物科学会賞選考委員会委員（11名のうち、1名は会長とし、10名は理事が正会員、名誉会員の中から委員候補者を選挙で選定する。
交代委員(10名)：阿部 なつ江，井上 徹，上原誠一郎，黒澤正紀，小暮敏博，
下林典正，高澤栄一，土谷信高，長瀬敏郎，中村美千彦
- 2) 渡邊萬次郎賞選考委員会委員(構成委員8名(うち2名は理事)，半数交代)
継続委員4名：上原誠一郎，土谷信高，宮島 宏(次期委員長)，吉朝 朗
任期満了交代委員：大和田 正明，高澤栄一，平島崇男，宮脇 律郎
- 3) 日本鉱物科学会論文賞選考委員会委員（構成委員10名(内2名は理事) 半数交代)
継続委員5名：阿部なつ江，井上徹，中村美千彦(次期委員長)，永嶋真理子，平島崇男
任期満了交代委員：鍵 裕之，川本竜彦，角替敏昭，森下知晃，吉朝 朗
- 4) 日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会委員（構成委員10名(内2名は理事)，半数交代)
継続委員5名：井上 徹，鍵 裕之，黒澤正紀，下林典正，三河内岳（次期委員長）
任期満了交代委員：安東淳一，大藤弘明，河上哲生，川本竜彦，永嶋真理子
- 5) 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会委員（構成委員10名(うち2名は理事)，
半数交代)
継続委員5名：上原誠一郎，黒澤正紀，小暮敏博，鈴木正哉(次期委員長)，永井隆哉
任期満了交代委員：佐藤 努，土屋範芳，宮脇律郎，柳澤教雄，吉朝 朗
- 6) 次期会長・副会長推薦委員会委員(構成委員5名)
委員は理事が正会員，名誉会員の中から委員候補者を選挙で選定する。

(5) 行事報告（2018年，2019年年会開催準備報告含む）（黒澤行事幹事・理事）

- 1) 現在，2017年9月12日(火)～9月14日(木)まで愛媛大学にて日本鉱物科学会2017年年会・総会が開催されていることの紹介と，2017年連合大会がAGUとの共催で2017年5月20日(土)～5月25日(木)の期間，幕張メッセで開催されたことが報告された。
- 2) 日本鉱物科学会2018年年会・総会が2018年9月19日～22日に山形大学にて開催され，9月22日は巡検実施を予定していることがLOCの伴理事から報告があった。
- 3) 日本鉱物科学会2019年年会・総会は9月に九州大学で開催予定であり，当学会決算時期と地質学会開催時期などと調整しながら検討することが小山内監事から報告された

(6) Elements報告（片山Elements幹事）

Elementsの英文校閲費用について，7月31日までの前年度中は6号分44,200円であったとの報告があった。

(7) 会計報告（栗林会計幹事）

法人税明細説明があった。著作権料収入71,856円に対する当期純利益は-19,980円となり，同額を次期繰越利益余剰金として計上した。

(8) JpGU2018年度学会選出プログラム委員報告(齋藤プログラム委員)

例年通り資源地質学会・日本地質学会と共同でJpGU 2018のセッション『岩石・鉱物・資源』の提案を行ったとの報告があった。

(9) 新鉱物・命名・分類委員会報告(宮脇新鉱物・命名・分類委員長)

2段階審査に変更されたため、チェックが厳しくなるとの説明があった。

(10) 教育普及委員会報告(奥山教育普及委員長)

以下の3件の報告があった。

- 1) JpGU教育検討委員会に参画し、新学習指導要領の下での「地学基礎」の内容を検討し、文科省への提出予定である。
- 2) JpGU教育課程小委員会として、「地球惑星科学学習帳」(当委員会委員が中心となって作成)をディストリビュートする取り組みを行う。
- 3) 学術会議の下で地学地理学分野の教育用語を検討する取り組みが進行中(当委員会委員が参画)である。

(11) 博物館委員会報告(坂野博物館委員長)

北川隆司鉱物コレクション巡回展は、最後の巡回地となる産業技術総合研究所地質標本館で開催中(7月11日～10月1日:JAMS後援)である。その後、コレクションは所有者へ返却される予定であるとの報告があった。

3. 研究部会報告(研究部会「岩石-水相互作用」土屋範芳代表)

- 1) 運営細則により、研究部会は毎年代表者氏名・連絡先・活動内容・所属する研究部会員の氏名等必要事項を理事会に報告する。」ことと規定されているため、研究部会「岩石-水相互作用」について以下のように報告があった。

代表者氏名: 土屋範芳, 連絡先: tsuchiya@mail.kankyo.tohoku.ac.jp

活動内容: 年会におけるセッション企画, 情報交換

所属する研究部: 岩石-水相互作用

代表者: 土屋範芳(東北大学・大学院環境科学研究科)

幹事: 奥山康子(産業技術総合研究所), 藤本光一郎(東京学芸大学),

河上哲生(京都大学・大学院理学研究科)

宇野正起(東北大学・大学院環境科学研究科), 岡本 敦(東北大学・大学院環境科学研究科), 掛川 武(東北大学・大学院理学研究科), 最首花恵(産業技術総合研究所), 佐脇貴幸(産業技術総合研究所), 中田英二(電力中央研究所), 水田敏夫(元秋田大・工学資源), 東野文子(東北大学・大学院環境科学研究科), 柳澤教雄(産業技術総合研究所), 山田亮一(東北大学・大学院環境科学研究科)

- 2) 平成28年9月22日の旧評議員会でのWRI (Water-Rock Interaction)2019年国際会議の誘致活動を承認したが、結果はロシア開催となったことが報告された。

4. その他

(1) 国石の出版の件報告（土山会長）

「日本の国石「ひすい」—バラエティに富んだ鉱物の国—（仮称）」出版条件等に関する報告があった。

II. 審議事項

第1号議案 新入会員の承認（佐藤会員幹事・理事）

- 1) 以下の学生会員2名の入会申込書が回覧され、異議なく入会が承認された。
林 秀幸 東京大学大学院理学系研究科M1 三河内 岳
横井仁菜 東京大学大学院理学系研究科M1 三河内 岳
- 2) 8月12日第3回理事会資格停止者の内6名が未納会費を全納したので資格停止が解除され、復活が承認された。

第2号議案 役員選挙内規の一部改定について(継続審議)

(大和田細則等検討委員長・理事)

選挙内規の第5項(3)の「2名以上を副会長候補者として選定する」という「副会長候補者の人数」について、「副会長候補者は1名以上とすること」と変更することを承認した。

第3号議案 将来企画委員会答申について（榎並委員長・代表理事）

- 1) 外部団体からの受賞候補者推薦依頼へ対応について、先に報告された内容が承認された。
- 2) 外部団体からの受賞候補者推薦依頼への対応について、先に報告された内容について継続審議となった。

第4号議案 選挙管理委員会委員の選出（中村庶務幹事・理事）

大内智弘会員，則竹史哉会員，坂巻竜也会員を選挙管理委員に選出した。

第5号議案 第2回理事会，第3回理事会，総会開催日の件（中村庶務幹事・理事）

- 1) 平成29年度第2回理事会は2018年5月19日(土)に幕張・東京近郊で行うことを承認した。
- 2) 平成29年度第3回理事会開催日について議論し，法令に従い総会開催日前日から2週間以上空けた時期で，9月最初の日程で検討することとなった。

第6号議案 会員数減少を阻止する目的のため検討

(佐藤会員幹事理事・吉朝特務幹事理事)

会員数減少を阻止する方策について，会員会費規定の変更，会員の開設，定款変更などについて提案がなされ，議論された。結果ワーキンググループを立ち上げ，今後も継続して審議することとなった。

第7号議案 国石に関する出版の件（土山WG委員長）

先に報告された「日本の国石「ひすい」—バラエティに富んだ鉱物の国—(仮称)」の出版条件等に関して、質疑応答があり、出版することも含め以下のことが承認された。

- 1) 買い取は行わないこと。
- 2) 初版印税の代わりに各執筆者10名及び学会に50-100部の本が贈呈されることで置き換えること、重版時には5%の印税が支払われること。
- 3) 著作表記等について、「一般社団法人 日本鉱物科学会 監修/土山 明 編著」などとする。
- 4) 定価については出版社希望で2,500円以上としたいが初稿ないし再校終了時に確定させること。

その他

- 1) JMPS編集委員交代の新たな3名が承認された。
- 2) Elements掲載記事の英文校閲取りやめの件
Elements側での英文校閲と二重になっているため、鉱物科学会での英文校閲を取りやめることが承認された。

【10】閉会

以上の議事を終え、18時00分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、出席した会長、副会長及び監事がこれに記名押印する。

平成30年5月7日

会長 土山 明 印

副会長 榎並正樹 印

監事 小山内康人 印

(配布時押印省略)